

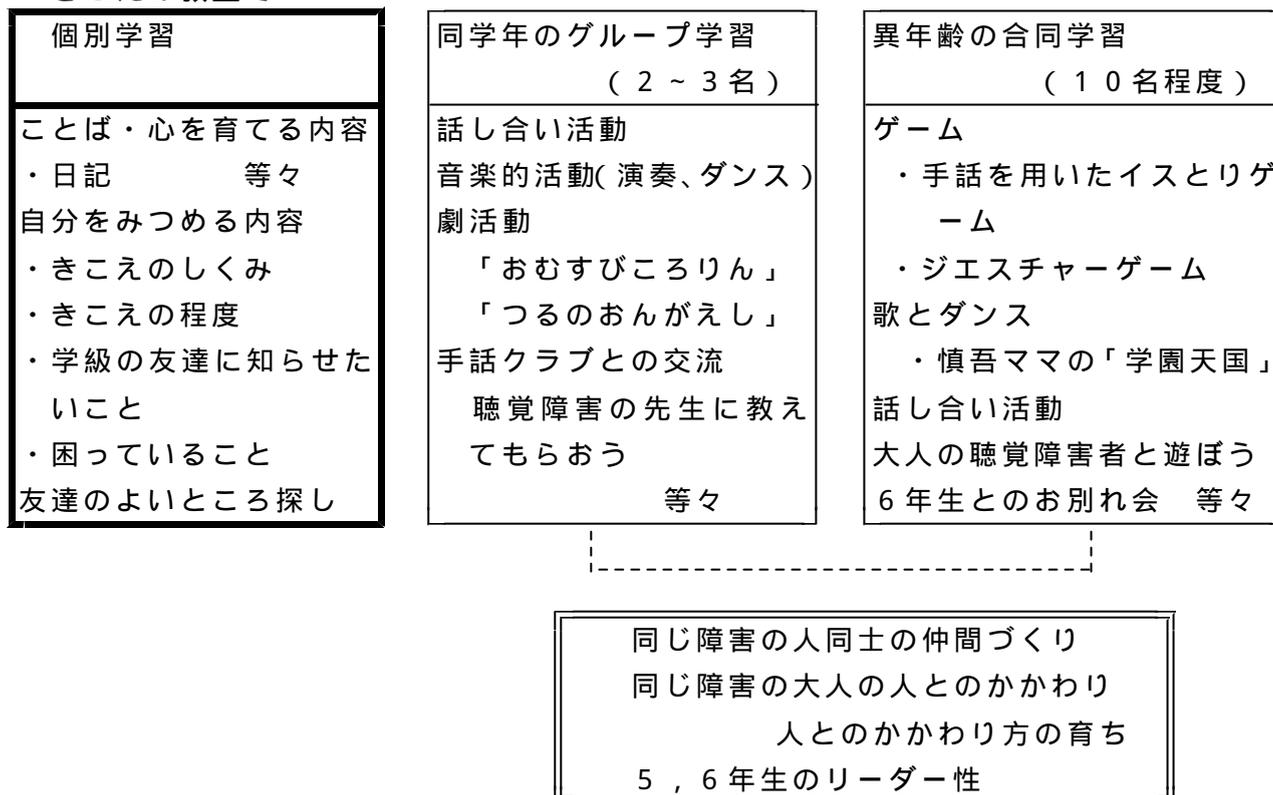
聴覚障害理解のための教材開発とそれを活用した授業

千葉市立院内小学校(現 筑波大学附属聾学校)

田原 佳子

きこえの教室の指導

きこえの教室で



通常学級、学年で 『難聴児自身からの発信による「難聴理解」授業』

『難聴児・健常児がともに創り出す「難聴理解」授業』

補聴器の先生(補聴器体験)

「ハートはなにいろ」の読み聞かせ

- ・声なしことばゲーム
- ・口の形が同じことばさがし
- ・集会の校長先生の話*

「耳の不自由な人についてしらべよう」(総合学習)

手話(総合学習との関連)

文字放送の呼びかけ(国語の作文教材、社会との関連)

ビデオレター(難聴児から、健常児から)

ジェスチャーゲーム

ロールプレイ

- ・休み時間の後ろからの呼びかけ*
- ・かんちがい「内緒話」*
- ・メロデーは苦手
- ・順番に言うのは苦手

健常児の質問に答えよう

難聴児からの訴え

- ・「私、寂しい！」*
- ・「私の耳は治らない！」

構成的グループエンカウンター

- ・よいところ探し「ハートぼかぼか大会」

学級・学年の健常児、担任、校長、教頭、教務主任、養護教諭の
難聴に対する理解の深まり
難聴児の友達関係の改善
難聴児の自信へのつながり

Hちゃんへの情報保障を考え始めたM校長先生

Hちゃん(4年生85dB)のK小学校に訪問し、校長室で校長先生に「難聴」についての説明をさせていただいた後、

「4時間目に時間をいただいてHちゃんのことをわかってもらうための授業をやらせていただきます。お時間があれば校長先生も観にいらして下さい。」と申し上げたところ、4校時が近づくと、始まる前からHちゃんの教室に入って来て下さいました。

この日は、難聴理解の絵本『ハートはなににいる』の読み聞かせを行いました。

・・・集会がありました。校長先生のお話がわかりません。ももちゃんは思わずうつむいてしまいました。・・・(『ハートはなににいる』より抜粋)

次の日、M校長からきこえの教室に電話がありました。「なんだろう？」と思いながら電話に出ると

「集会のときの私の話がわからないという話がとてもショックだった。今まで、聞こえているものと思っていた。私はどうすればいいか・・・」

というような内容のことをおっしゃられました。可能な範囲でキーワードになる言葉の視覚的な資料を使って話せば校長先生の話がわかりやすくなる、それは、聞こえる子どもたちにとってもわかりやすくなるということを伝えました。それとともに、FM補聴器の装用を嫌がるHちゃんに装用することを勧め続けました。

タイミング良く、きこえの教室に市が赤外線補聴システムを設置してくれ、Hちゃん達に使い始めました。赤外線補聴システムのマイクを通して、先生や友達の声がとても聞こえやすくなったHちゃんは、やっとFM補聴器を装用する気になりました。

K小学校でFM補聴器をつけ始めたHちゃん。M校長は、FM補聴器のことを知ったときからHちゃんに装用するように勧めて下さっていたので、とても喜んで下さいました。すぐに集会でFM補聴器のマイクを使って下さいました。使ってみたのはよかったのですが、M校長は「うーん」と考え込んでしまわれました。

校長の話はHちゃんによく聞こえるようになった。

次に保健の先生が風邪についてのお話しをするときは入れ替わるときにマイクを渡せばよいのだからそれもよくなった。

でも、司会の先生にすぐにマイクを渡すことは難しい。

M校長は考え込まれた結果、市の教育委員会にその旨を伝え、FM補聴器のマイクがたくさんあって話をする教師が全員マイクを持っていれば全ての話がHちゃんに伝わるので、市がFM補聴器のマイクの貸し出しをしてくれないかということ相談されました。

その直後、市から私のところに電話がありました。「FM補聴器のマイクが複数で使用した場合効果があるか」という問い合わせでした。私は、いくつかの補聴器を扱っている業者にその件を尋ねるとともに、周波数を同じにした2台のマイクで実験をしてみました。結果、残念ながら、複数のマイクを使うと周波数が同じでも雑音が入り、使用できないことがわかりました。しかし、このことで教育委員会の先生ともいろいろな話ができ、今まで個人持ちだったFM補聴器を市でストックしておき、貸し出しをして下さる方向に話が進みました。

M校長は実験の結果を聞いてとてもがっかりされましたが、M校長が先頭になり、担任とともに、Hちゃんに聞こえる子どもたちと同じように情報を保障してあげたいという思いで、この学校ではHちゃんへの取り組みが広がってきています。

「S君、S君！」うしろからは聞こえないよ

S君(1年生60dB)の生活するO小学校に訪問し、休み時間の様子を見ているときの出来事。

広い校庭でサッカーを数人の男子と一緒にしていたとき、友達が約3メートルうしろから、「Sくん、Sくん、Sく～ん・・・」と何度も呼んでいるが、聞こえないS君。たまたま何度目かの呼びかけで偶然振り向き、「なあに？」と返事ができた。

そのあとの「難聴理解授業」の中で、さっそくこの出来事を担任のY先生にお願いして私と2人で劇ふうで1年生の学級の子どもたちに示してみた。Y先生に補聴器をつけた子ども役を演じていただいた。

「Yちゃん」

「・・・」

「Yちゃん」

「・・・」

「Yちゃんたら！」

「・・・」

「もうYちゃんたら何度呼んでも返事をしてくれない。もうYちゃんと遊ばない！」
さあ、子どもたちの反応は大変なものだった。

「Ｙちゃんがかawaiiそう」「Ｋちゃんはすごーく意地悪」・・・
そこで、みんなだったらどうやって呼ぶか、Ｋちゃん役を子どもたちに演じてもらった。
Ｙちゃんの前まで行って「Ｙちゃん」そのとき口をはっきり開けて言うんだよと説明
うしろからＹちゃんの肩をとんとんと軽くたたいて「Ｙちゃん」
どちらもＹちゃんにちゃんとわかってお話しができた。

自分を見てみんながひそひそ話をしてしていると訴えるＮちゃん

きこえの教室に来ては、学級の友達が自分を見ながら笑ったり内緒話をしてしていると訴え
続けるＮちゃん(５年生９５dB)。そこで、Ｎちゃんと相談をして学級訪問をしたときに
そのことをロールプレイで演じて考えてもらうことにした。Ｎちゃんの案で、顔の絵の掲
示物をＮちゃんが作ることにした。

いよいよ、学級での「難聴理解授業の時間」。Ｎちゃんが作った顔の絵を黒板に貼りな
がら説明し、Ｎちゃんと私で役割演技を行った。

・・・
・・・

見ていた子どもたちは、「私も悪口を言われているようで、悲しいことがあった」等々の
感想が出てきた。

次に、３人の子どもたちで演じてもらい、２人の友達が自分を見てささやいたり笑った
りするとどんな気持ちになるか感じてもらった。２人の友達役の子どもたちは悪口を言っ
たわけではないし、その子のことを笑ったわけではないけれど、なんとなく見てしまった
ことで勘違いをさせてしまったことに気づいた。

その役割演技の後、聞こえにくいとそんなふうに悪口を言われているように感じてしま
うことをＮちゃんから訴えた。子どもたちは、

「そんなことは絶対言っていないよ！」

とＮちゃんにはっきりと伝えた。Ｎちゃんは勘違いだとわかって満面の笑みを浮かべた。

授業後、Ｎちゃんに手紙を書いてもらった。

・・・Ｎちゃん、ごめんね。Ｎちゃんの気持ちに気がつかないで。でも、絶対Ｎちゃん
のを見て笑ったのではないよ。これからは一緒におしゃべりしようね。

自分の考え過ぎだったことがわかったＮちゃんは気持ちが晴れたようで、とても明るく
なり、きこえの教室で悩みを訴えることも減った。

「私、さびしいの」

児童会の副会長をしているＡちゃん(５年生９０dB)。集会の司会進行を大きな声では
っきりと言いながら頑張っていて進めている。Ａちゃんは副会長に立候補するほどの積極性
がある反面、友達とかかわることが苦手である。特に５年生の学級編成で仲良しの友達と学
級が別れてしまい、新しい学級で仲良しの友達がなかなかできなかった。きこえの教室に
来るたびに、

「きこえの教室は楽しい」「学級は友達がなくてさびしい」

と、訴えることが多くなってきた。

そんなとき、学級訪問してどんなことをしようかと投げかけたところ、Ａちゃんは

「さびしい、友達がほしい、みんなとおしゃべりがしたいということをみんなに伝えたい」という気持ちを持った。お母さんや担任の先生にもこのAちゃんの気持ちを伝え、友達の前で話すことを了解していただいた。

当日、私が学級の子どもたちにAちゃんからの真剣な話があることをまず伝え、子どもたちの聴こうとする気持ちを高め、Aちゃんが言いやすい雰囲気を作った。

いよいよ、Aちゃんがみんなの前で話し始めた。話し始めると教室中がシーンと静まりかえり、Aちゃんの声が響いた。

「私は休み時間ほとんど一人で過ごしています。でも、それは一人でいたいわけではありません。本当はひとりぼっちでさびしいんです。私もこれから話しかけるようにするので皆さんも私といっばいおしゃべりをして下さい。」

・・・パチパチパチ・・・

誰からともなく、拍手がわきあがった。その後の休み時間、Aちゃんの周りは友達でいっぱいになった。給食も楽しくおしゃべりをしながら食べていた。

その直後のきこえの教室での学習で、Aちゃんの学級の子どもたち全員から一言ずつのメッセージをビデオで見せた。Aちゃんは大きな目を見開いて

「先生、これ、どうしたの？」

と、大きな声で尋ねた。

「驚いたでしょう。あの日、給食の準備中に隣の空き教室に一人ずつ来てもらってメッセージを一言ずつ言ってもらったのよ。それをビデオに撮ったの。」

Aちゃんは、目を輝かせて頬を紅潮させながら一人ひとりのメッセージを聴いた。

それから、Aちゃんは自分から友達を誘うようになり、Aちゃんの家で友達が遊びに来るようになった。誕生日会には9人の友達が来てくれたそうだ。日記にそのときのうれしくてたまらなかったことが記されていた。

きこえの教室「自分を見つめて」

1、題材の目標及び個別目標との関連

年間目標	(1)聞き手に伝わるように、はっきりと話することができる。 (2)自分の考えをもち、相手に伝えることができる。 (3)相手の気持ちを考えようとする。
学期目標 (2学期)	(1)- 聞き手を意識した声の大きさと話することができる。 (2)- 自分の訴えたいことを学級の友達や先生に伝えることができる。 (3)- 友達の気持ちを知り、それに応えることができる。
題材の目標	・学級の友達に聞こえるような声で話することができる。(1)- ・自分の思ったことを学級の友達や先生に話することができる。(2)- ・学級の友達の知りたいことに応えることができる。(3)-

2、主題に迫る手だて

- (1) ・本児の願いを大切にしながら個別目標を設定し、学級の友達や大勢の先生と係わる活動を多く取り入れる。
・難聴児が主人公の絵本を自分と比べながら読み、自分の障害と向かい合う。
・アンケートや手紙等により友達の思いを知り、相手の気持ちに応えていく。
- (2) ・通常学級の担任と連絡を密にとり、学級の友達の理解を得るために難聴理解授業を行う。できる限り本児（難聴児）自身から投げかけられるようにする。

3、学習計画（7時間）

	学 習 活 動	時配
1	自分の「きこえ」について考えよう <ul style="list-style-type: none"> ◦ 難聴理解絵本『ハートはなにいろ』を読んで自分と似ているところ、違うところについて話し合う。 ◦ 学級の友達に知ってもらいたいことを考える。 	2
2	学級の友達に「きこえ」について知ってもらおう <ul style="list-style-type: none"> ◦ 学級の友達が聴覚障害についてどんなことを知りたいか、アンケートで調べる。(資料 参照) ◦ 自分の知ってもらいたいこと、友達の知りたいことをまとめる。 ◦ 学級の友達や先生にまとめたことを自分から発信して知ってもらう。(本児の通常学級での難聴理解授業) <ul style="list-style-type: none"> ・話し方、声のかけ方のプリントを読む。(資料 参照) ・聞こえにくさから生じる困ったことのロール・プレイングを行い、感じたことを話し合う。(資料 参照) ・本児が補聴器の先生となって、学級の友達に補聴器体験をしてもらう。(資料 参照) 	2
3	周りの人達に「きこえ」について知ってもらおう <ul style="list-style-type: none"> ◦ 学級の友達に自分から発信したときの気持ちについて話し合う。 ◦ 学級の友達からの手紙を読む。 ◦ 参観の先生方にも知ってもらいたいことを自分から発信する。 <ul style="list-style-type: none"> ・発音練習をした後、日記を読む。 ・本児が学級の友達に話しているビデオを見る。 ・学級の友達からのビデオレターを見る。 ・参観の先生方に補聴器体験をしてもらう。 ・担任の先生から本児の長所を聞く。 	2 本時 1/2
4	ふりかえって <ul style="list-style-type: none"> ◦ 学級の友達や先生方に手紙を書く。 	1

4、活動の様子

<省略します。>

5、成果と課題

本児自身が学級の友達からアンケートをとったことは、友達の気持ちに答えたいという意識を高めることができた。

学級の友達、担任や校長先生、そして本校の先生方の前で、話をする経験をしたことで相手に伝わるように話すことの大切さがわかり、はっきりと話そうと努力するようになった。

本題材を通して、本児は大きな自信を持ち、明るい表情で生活するようになった。

通常学級での難聴理解授業、担任のきこえの教室での授業参観等を通して、本児が生活する学校との連携がより深まった。

さらに、指導内容や指導方法をさまざまに工夫し、自分の気持ちを表現する力や相手の気持ちを思いやる心を育てていく必要がある。

通常学級での様子を、きこえの教室での学習内容にもっと効果的に生かしていきたい。

6、資料 きこえの教室「自分を見つめて」

資料 学級の友達の意識調査

難聴理解授業を行うには、難聴児の学級の友達が「難聴についてどの程度理解しているか」「どんなことを知りたいと思っているか」ということを知った上で、題材を考えることが大切である。そこで、自由記述式のアンケートをとって、学級の友達の意識を探った。アンケートの内容は、難聴児とともに考えた。そして、難聴児自身が友達に投げかける形で行った。

<アンケート結果> 主なもののみ、抜粋

*印は、難聴である本児が学級の友達に最も知ってもらいたいこととして選んだもの

質問	学級の友達の答え
1 耳が聞こえにくいことで知っていることは？	<ul style="list-style-type: none"> ・口形が同じだと聞き間違えてしまう（12名） ・口形を見て何と言っているかわかる（8名） ・手話で話す（8名） ・ゆっくりと話さないといけない（5名） ・はっきりと大きな声で話さないといけない（5名） ・補聴器を使っている（3名） ・大勢の人が話していると大事なことを聞き逃してしまう（1名） ・聾学校などに行って人の話を聞き取る努力をしている（1名） ・聴導犬と一緒に暮らしている人がいる（1名）
2 補聴器のことで知っていることは？	<ul style="list-style-type: none"> ・音や声を聞こえやすくしている（9名） ・雑音(机などを動かす音)までも大きくしてしまう（5名） ・マイクがついている（5名） ・しっかりとはめていないとピーと音が出る（5名） ・水にぬれるとこわれる（2名）
3 耳が聞こえにくいことで知りたいことは？	<ul style="list-style-type: none"> ・耳が聞こえにくいってどんな気持ち？（3名） ・早口言葉はわかるの？（3名） ・耳が聞こえにくいことで困ってしまうことは何？（4名） ・どうやって口の形で言っていることがわかるの？（2名） ・聞こえにくい時はどうしているの？（1名） ・補聴器をとったら全然聞こえないの？（1名） ・聞き間違いはいっぱいあるの？（1名） ・補聴器をしても聞こえない人はどうするの？（1名） ・友達と話していて聞こえづらいことはある？（1名） * いつかは補聴器をとっても聞こえるようになるの？（1名）
4 補聴器のことで知りたいことは？	<ul style="list-style-type: none"> ・補聴器はどうやって聞こえるようになっているの？（5名） * どれくらい、どんなふうに聞こえるの？（4名） * 補聴器を大切に使うにはどのようなことをしなければならないの？（1名）

資料 「補聴器をつけている友達と話すとき」

話をするとき友達に気をつけてもらいたいことを、難聴児とともに話し合った。そして、「補聴器をつけている友達と話すときの話し方・声のかけ方」としてプリントにまとめた。学級の友達にこのプリントを配り、難聴児自身が読んでわかってもらうようにした。

「補聴器をつけているお友だちと話すとき」

- 1, 補聴器をつけているお友だちの前に立って話してください。
 - 2, 補聴器をつけているお友だちに、口の動きがよく見えるように話してください。
 - 3, 呼んでも聞こえないときは、肩を軽く「とんとん」としてください。
 - 4, 少し大きい声で、少しゆっくり話してください。
 - 5, 一度でわからないときは、もう一度やさしく話してください。
- それでも、わからないときは、紙に書いてください。

資料 ロール・プレイング

難聴児の気持ちを理解しやすい活動として、ロール・プレイングを取り入れた。内容は、学級の友達にわかってほしいこととして、難聴児自身が考えた。

友達「今度の日曜日、一緒に遊ぼう」	難聴児「えっ、もう1回言って」
友達「今度の日曜日、一緒に遊ぼう」	難聴児「えっ、何？」
友達「今度の日曜日、一緒に遊ぼうって言ったのよ」	難聴児「えっ？」
友達「もう、いい！」または「何でもない」	難聴児「……………」

資料 補聴器体験

補聴器を県特殊教育センターから9台、千葉県立千葉聾学校から12台借りてきて、2人に1台ずつ配り、補聴器体験を行った。学級の子どもたちだけでなく、学級担任や校長や養護教諭にも体験してもらった。

【学級の友達からAちゃんへの手紙】

Aちゃんがどれくらい補聴器を大切にしているかがわかりました。
これからもわからないことがあったら、聞いてくれるとうれしいです。
Aちゃんともっとたくさん話がしたいです。

私は、今日初めて補聴器をつけてみたけれど、イスを「ガタンッ！」で落としたとき、いつもより大きな音にびっくりしました。きっと、Aちゃんはそうじの時間、イスや机をひきずる音がすごくうるさいんだね。同じそうじ場所になったら、イスを落とさないようにするね。

Aちゃんが補聴器をつけて人の話をいっしょうけんめい聞こうとしているところを何度か見かけました。これからもがんばってね。
Aちゃんが補聴器をつけていて、いろいろな「音」が一斉に耳に飛び込んできて、うるさかったり耳が「キーン！」となったりして、大変だと思います。
私もつけてみたとき、耳がキーンとなったので、いつもつけているAちゃんは大変だろうなと思いました。